

地域連携室だより

ハイライト

- ・CKD勉強会を実施開催しました
- ・MSWちよこっとコラム 地域ケア会議について
- ・特定疾患(難病)医療の制度が変わります
- ・編集後記

CKD勉強会を開催しました。

地域連携室では、地域の介護サービス事業者(ケアマネジャーさんや訪問看護師さん等)を対象に勉強会を開催しています。地域で高齢者の生活を支える人たちにCKD(慢性腎臓病)についての理解を深めてもらうこと、病院との連携強化を図ることが主な目的です。カフェマルマーレを使用して10月16日に第2回目となるCKD勉強会を開催しました。

今回のテーマは「透析治療のABC」

透析治療について、当院副院長の政金生人医師
透析の療法選択について、本町クリニックの小関香織看護師
がお話しました。

透析が人生の目的ではない。元気に生活するために、ライフスタイルに合わせた透析を選択すること等のメッセージを発信することができたと思います。



皆さん、真剣に聞いてくれています

質問もたくさん出て、活発な意見交換ができました



これからもこのような取り組みを継続し、CKDを地域で支える基盤となることを期待しています。
次回は来年の4月に開催する予定です。さらに楽しく役立つ企画を考えていきます!!



MSWちよこっとコラム 地域ケア会議について

前回、地域包括ケアシステムについて取り上げましたが、地域包括ケアシステムを構築するためには、高齢者個人に対する支援の充実と、それを支える社会基盤の整備とを同時にすすめることが重要とされています。これを実現していく手法として「地域ケア会議」が推進されています。

地域ケア会議では、地域包括支援センターや市町村が主体となって、多職種が集まり、高齢者が持つ個別の課題について検討します。

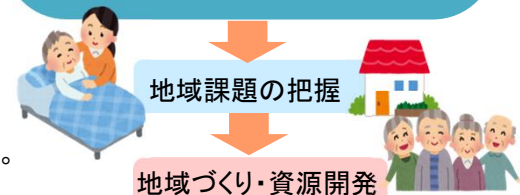
9月に参加した在宅ケア勉強会で、地域ケア会議の先進事例と、山形市における今後の取り組みについて話を聞いてきました。山形市では、まだ会議実施に向けた準備段階のようです。今後は、先進自治体への視察や、セミナーの開催、多職種や関係機関に向けての研修、模擬演習会等を予定しているとのこと。

勉強会を通して、地域ケア会議はあくまでも地域包括ケアシステムを実現していく手法の一つであり、形に捉われるのではなく、地域の特性に合った取り組みが必要と感じました。その人らしく生活が続けられるような地域づくりが進められていくといいですね。

地域ケア会議

《主な構成メンバー》
地域包括センター、市町村職員、ケアマネ、介護事業者、民生委員、PT、OT、ST、看護師、管理栄養士、歯科衛生士etcf

個別ケース(困難事例)の検討を通じて、地域のネットワークづくり、高齢者の自立支援のケアマネジメントの支援を行う。



特定疾患(難病)医療制度が変わります

H27年1月から特定疾患(難病)医療制度が変わります。

現在、難病の医療証をお持ちの方はちょうど更新の書類が送られてきていると思います。これまでと記載内容や必要な書類が違っているようですのでご確認の上、ご不明な点があればお声かけください。

主な改正点は

- ① 対象疾患が56疾患から300疾患に増えます(新規疾患については27年夏から助成開始。)
- ② 新たな自己負担限度額。入院食事療養費が自己負担に。
- ③ 指定医制度の導入 等です。

編集後記

朝夕の冷え込みが厳しくなってきました。私はこの時期、朝布団から出るのが辛くていつもギリギリまで布団の中でぬくぬくしてしまいます。その結果、駐車場から猛ダッシュする羽目に(涙)結果がわかっていてもつい...ということ、ありますよね?
この時期は、特に、健康管理と交通安全!心がけていきたいと思います!